徒然譚

周年記念誌編集後記

◆創立１００周年記念誌

新潟県立高田商業高等学校創立百周年記念事業の一環として企画した「鮫城健児百年史」が、ようやく刊行の運びとなりました。限られた期間の中でしたが、過去の記念誌を参考に、この１０年間の変遷を加えながら創立百周年記念誌にふさわしい内容にすべく編集作業を進めてまいりました。

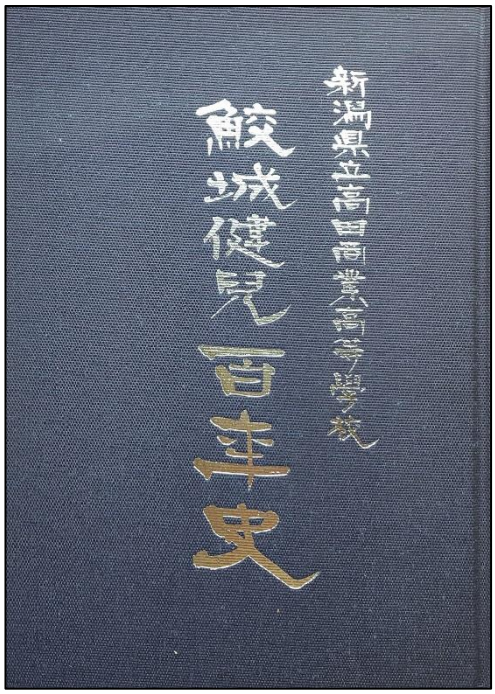
この作業を通して、原稿をお寄せいただいた皆様や編集に御協力いただいた皆様の本校に対する熱い思いを感じることができました。皆様方の御協力や激励がなければ、ここに刊行することができなかったと思います。改めて深く感謝申し上げますとともに、「鮫城健児百年誌」をとおして本校の歴史を御理解いただき、今後一層の御支援をいただきたいと思います。なお、編集には細心の注意を払ったつもりではありますが、誤植等の不手際がございましたら御容赦のほどお願い申し上げます。

最後に、御多忙中にもかかわらず御寄稿くださった皆様をはじめ、写真資料を提供していただいた折笠写真館様、印刷に御尽力くださったサクラ印刷様に深甚なる謝意を表する次第です。

＊＊＊　記

【記念誌担当】

＊＊　＊＊（同窓会）
＊＊＊　＊＊（同窓会）
＊＊　＊＊＊（ＰＴＡ）
＊＊　＊＊（現職員）
＊＊　＊＊（現職員）



◆創立９０周年記念誌

最初に、この９０年誌のために原稿をお寄せ下さいました皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

今、振り返ってみますと「再編期」と捉えられていた昭和６０年から平成７年を経て、時代はすでに新たな再編期に入っています。「情報処理科」も約２０年でその使命を終えるとともに「商業科」の名前が消え、「総合ビジネス科」４学級に改組されました。日本全体が壮大な試行錯誤を繰り返していく中で、歴史を現在に伝えるこのような周年誌の必要性はますます増すことでしょう。

大地震や豪雪といった自然の災害は止むことがなく、民族・宗派・国家間の紛争といった人為的な出来事もますます激化していきそうです。ビジネスの社会にとどまらず、教育現場にも競争の波が及び始めてから長い時間が経ちました。子供たちの世界でのいじめや大人の世界での過労死、若年層でのフリーターの問題もクローズアップされています。

この記録には、次の 10 年間にどのようなことが起こるのか、想像する楽しみがありそうです。また、ともすれば機械的な記述に終わりそうな本誌に、昔の大切な思い出を掲載させていただくことができましたのは望外の幸せでした。血の通った温かい紙面になったのではないかと自負しております。

１００周年誌に恥じない成果と実績をあげられる人物、そして何よりも社会に貢献できる人物の育成を目標に、これからも精進していく決意を心に刻み込むと共に、高田商業高校の更なる発展を祈願しつつ、式典にご臨席下さった皆様に感謝の意を表しまして筆をおきます。

（＊＊　記）

編集委員（五十音順）

同窓会委員

＊＊ ＊＊・＊＊ ＊＊

ＰＴＡ（保護者）委員

＊＊＊ ＊＊

ＰＴＡ（校内職員）委員

＊＊＊ ＊＊・＊＊ ＊＊・＊＊ ＊

＊＊ ＊＊・＊＊ ＊＊＊・＊＊ ＊＊

＊＊ ＊＊・＊＊ ＊＊・＊＊ ＊＊＊

◆創立 80 周年記念誌

創立６０周年記念誌「鮫城健児の歩み」の後を受ける形で、創立６０周年以降の２０年間を中心に編集しました。２０年間の空白は予想以上に資料収集に困難をきたしましたが、ようやく刊行の運びとなりました。

今回は「思い出」という題で原稿依頼をして１４人もの方々から原稿をお寄せいただきました。ご多忙中貴重な時間を割いていただき本当に有難うございました。この「思い出」は学校の沿革を補う、より具体的な生きた記録としてお読みいただければ幸いです。

ここには一瞬一瞬形成される歴史の秘密が表現されています。そして、歴史の秘密にあずかって力のあったのは、他ならぬ個々の人達の主体的燃焼であったことが読みとれるのです。この視点から、甲子園出場を契機に全国大会出場が運動部・文化部共に増加したのも、教師と生徒が自ら気づかぬ暗部に光を当てる主体的燃焼によって内質を高めた成果であることが見えてきます。このように、自発的・能動的に対象に働きかける一人ひとりの主体性の確立こそ、教育の根本的課題であるだけに、新たなる本校の歴史の形成に必要不可欠なものであると言えます。

その意味でも「思い出」に見習って他の分野でも立派な記念誌をつくる主体的な努力をしましたが、係りの力量不足からご期待にこたえられなかったのではないかと思います。

願わくはこの記念誌を通し本校の歴史をご理解下さり、一層のご支援をいただきたいと思います。

最後に、原稿をご寄稿下さった各位、写真資料を提供していただいた折笠写真館様、印刷にご尽力下さった文化印刷様に深甚なる謝意を表する次第です。

＊＊ ＊＊ 記

【編集委員】（５０音順）

◎同窓会委員

＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊

◎ＰＴＡ（保護者）委員

＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊
＊＊＊＊　＊＊＊＊

◎ＰＴＡ（校内職員）委員

＊＊ ＊　＊＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊ ＊
＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊
＊＊＊＊＊

◆創立７０周年記念誌／高田工業高校（賛助掲載）

◆我ら編集委員には本校の卒業生が一人もいなかった。しかも、我が校には永年勤続数多の先輩がいられるのに、我らの殆どは数年からゼロ年の若輩ばかり。加えて、委員の移動や退職などもあって、終始途方にくれながら今日の日を迎えたというのが全員共通の実感である。

◆しかし、若輩ながらどの委員も仕事にはまじめに取り組んだ。原稿依頼、そのための家庭訪問、会議、打合せ、撮影、録音・・・いろんな作業があったが、殆んど本務の傍ら手弁当でコツコツとこなしてきた。「記念誌の完成よりも作業のプロセスで得たいろんな体験の方が意義深い」某委員の発言だが、これも我らの共通した思いと言える。

◆さて、記念誌づくりに当たり今回のテーマをどこに絞るか。討議を積んで「創立期から戦前戦中のエピソードをできるだけ多く発掘しよう」ということになった。我ら一同その方向で各々努力したわけであるが、果たしてその成果をこの冊子から読み取っていただけるかどうか・・・皆さんの批判には謙虚に頭をたれる覚悟である。

◆編集中に得た一番大きな宝物は、なんとしてもいろんな人と巡り会えたことである。どの方々も母校である本校の学生時代や勤務期間を快く回想くださったが、その語り口と輝く瞳には本校の学生としての、或いは教師としての当時の意気込みと情熱が感じられた。彼ら先達のハツラツさを我ら後輩はいま正しく継承し発展させねばならぬ。

◆ともあれ、この冊子は我ら編集委員とって難産の末の子である。それだけに生まれた今もあれこれ気がかりなことばかりだが、これらは次回のための反省点としたい。そんないくつかを並べてみると、

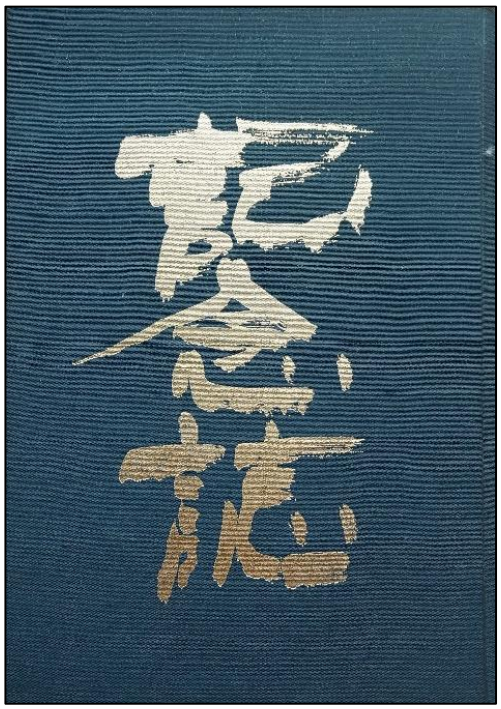
１．８０周年の記念誌づくりは、もう今から手がけるべきである。
２．編集委員には本校の卒業生が中心となって作業を進めること。
３．現存する卒業生の最高年齢者は丁度創立期の学生であり、彼らの生きた証言を今集めておかないと証言は永久にとれなくなる。
４．「資料室係」を校務分掌でキチンと決めて貴重な資料が系統的に体系的に整理拡大でき、誰でもスムーズに使用できるようにしておくこと。

などであるが、８０周年記念誌づくりの教訓にしていただければ幸いである。

◆末筆ながら、この冊子を作るに当たってご協力ご支援くださったすべての方々に、我ら一同心を込めて感謝しお礼申し上げたい。皆さまのご健康とご多幸を祈りつつ・・・

編集委員（アイウエオ順）

＊＊＊＊（図書）
＊＊＊＊（社会）
＊＊＊＊（社会）
＊＊＊＊（英語）
＊＊＊＊（社会）
＊＊ ＊（社会）
＊＊＊＊（デザイン）
＊＊＊＊（社会）
（６０年４月から南城高校へ転勤）
＊＊ ＊（理科）
＊＊＊＊（社会）
＊＊＊＊（国語）
＊＊＊＊（建築）
＊＊＊＊（社会）



◆創立６０周年記念誌（鮫城健児のあゆみ）

すでに周知、ご明察のとおり、小誌は高田商業高等学校創立６０周年記念事業のひとつとして企画され、昭和４９年に発行準備が始められたものであります。

以来６年間の歳月を費やしたことになりますが、この間、まさに筆舌に有り余る紆余と曲折を経て、ようやく刊行できる運びとなりました。

小誌の企画から資料の収集、整理、執筆、編集などに至る諸作業にあたっては、高田商業高等学校の歴代校長、前現の教諭・職員各位、学生諸氏ならびにＰＴＡ、同窓会会員各位に粉骨砕身のご尽力を賜わりました。

ここに、ご各位のご尽力に対して深甚なる謝意を申し上げます。

発刊に際し、本来ならば甚大な周知をお寄せ頂きました諸氏に対し、筆墨を以てお礼申し上げなければならないものと心得ますが、まずは、本欄にて略儀ながらお礼申し上げます。

顧みれば、６年前「記念行事は打ち上げ花火的なものであるのに対して、記念事業ことに記念誌編集は、創立６０年の足跡を確と歴史に誌すものである」との意気のもとに小誌の刊行計画、企画などの準備作業が始められました。

そして、小誌はこのような初志の意気と熱意の中で収集された豊富な資料があったればこそ、ここにその片鱗といえども、晴れの発刊を迎えることができたものであります。

だが、一般的にも仄聞することですが、小誌においても、「歴史を誌す」ことの困難さが、小誌発刊に費やした歳月の長さに隠されております。まず「正しい歴史とは何か」という大前提があります。本校創立以来の６０年余年の間には、いうまでもなく多くの、大きな時流の変化変動がありました。そして幾度かの価値感の激変も繰り返されました。このような時の流れを経て編まれた歴史を後の世代の新しく芽ばえた自覚や価値観を原点として批判し、評価することや、正誤を判断することは、必ずしも困難なことではありません。

しかし、それでもなおかつ、歴史の評価や成否の判定は、人それぞれによって異なるものです。まして、歴史の流れの渦中にあって右語左言が相互に批判し、正誤を判断していくことは、きわめて危険なことであることを、われわれが創立以来の６０年の社会の歴史的背景のなかで、十分に知り、十二分に味わってきたことであります。

果たして、ここに発刊することとなった「鮫城健児の歩み」が、母校・高田商業高等学校の創立６０周年の記念誌として、当初企画、意図されたものを何分の一かでも踏襲し、６０余年の歩みを伝え得るものか、さらに今後７０周年、８０周年、百年へと連なる「ひとつの歴史」として評価できるものかどうか、甚だ心もとのないものであると思います。

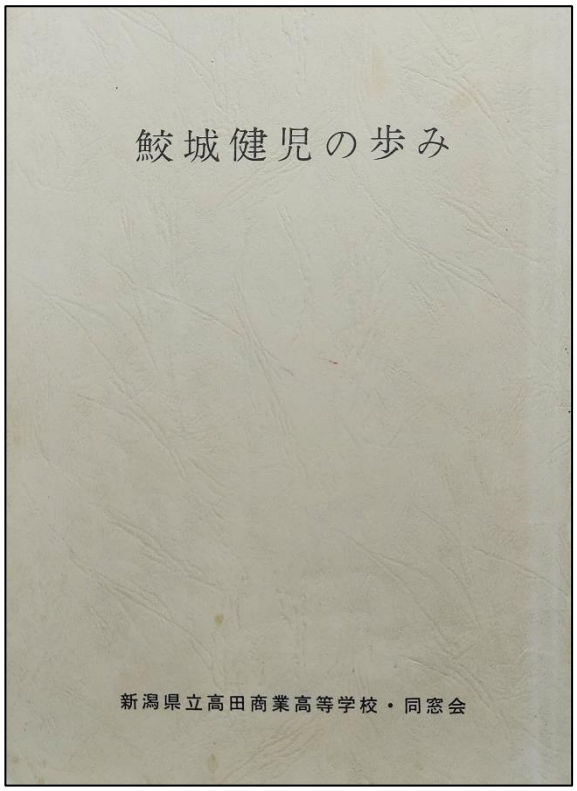
しかし、少なくとも小誌刊行の初志に従い、その意気と熱意によって収集された資料を基に、時流の中の評価や、人それぞれの立場によって左右されない

厳正中道とはいかないまでも、知ることの基礎にはなり得る事実のみを収録するよう心掛けたつもりです。

ともあれ、編集の任の当事者としては、６年の歳月の流れをかけた小誌が、ここに発刊されることは、無上の喜びであります。

重ねて、小誌の刊行にご尽力賜りました数多の方々に心からお礼申し上げる次第です。

（鮫城健児の歩み委員長　＊＊＊＊ 記）



◆創立５０周年記念誌／高田工業高校　緑苑５０周年記念号（賛助掲載）

私達が去年の３年生より仕事を受け継いでよりもう１０ヶ月あまり。

今日生徒会誌「緑苑」１０号を発行出来た事を嬉しく思います。本年は広報部の仕事も、今までの名目だけの放送と違い、放送設備も整い、広報活動もバラエティーに富んで来ました。本誌は創立５０周年記念に当たり、生徒会活動も多くの年輪をきざみここまで育ってまいりました。そして近年ますます活発化して来た生徒会活動の中で、本誌編集が５０周年記念誌という事情もありますが、我々が全部出来ず先生方の手をお借りした事が残念です。

なお、本誌編集に当りまして多数の原稿をお寄せ下さった先輩在校生の皆様、編集校正にと多くの力をお貸し下さいました先生方に厚くお礼申し上げます。

（＊＊＊）

ことしは創立５０周年の記念式典が１０月９日にもたれるので、それに間に合わせようと、急いでの編集となりました。もちろん内容も、それを祝って、本校の５０年史や同窓生の方々の座談会等を載せましたので、意義のあるものになったと思います。

本号は、内容の性質から、例年に比べ生徒作品が少なくなりましたが、これはいたしかたのないことと思います。

終わりに、表紙裏の校訓をお書きくださった塚田知事、また、玉稿をお寄せくださった土井、井沢前校長、その他御協力くださった多数の方々に厚く御礼申し上げます。

（編集部）

生徒会誌編集委員名

３年　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊
　　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊
　　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊
　　＊＊＊＊

２年　＊＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊
　　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊
　　＊＊　＊　＊＊＊＊＊

１年　＊＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊
　　＊＊＊＊　＊＊＊＊　＊＊＊＊

職員

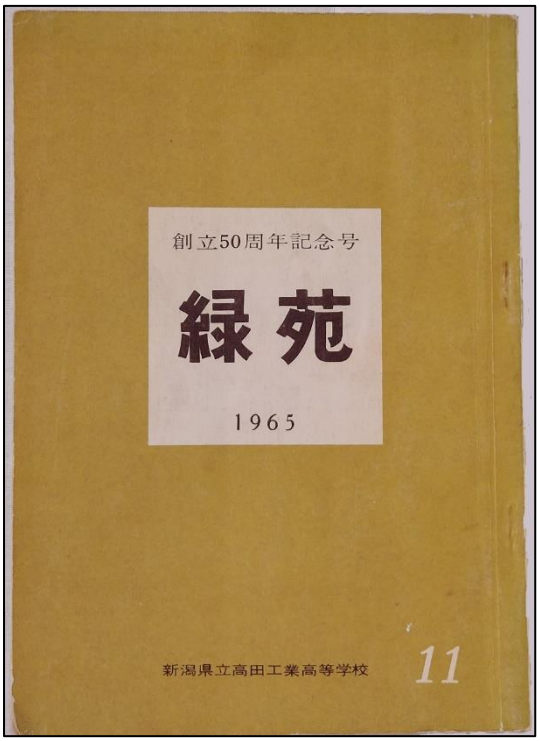
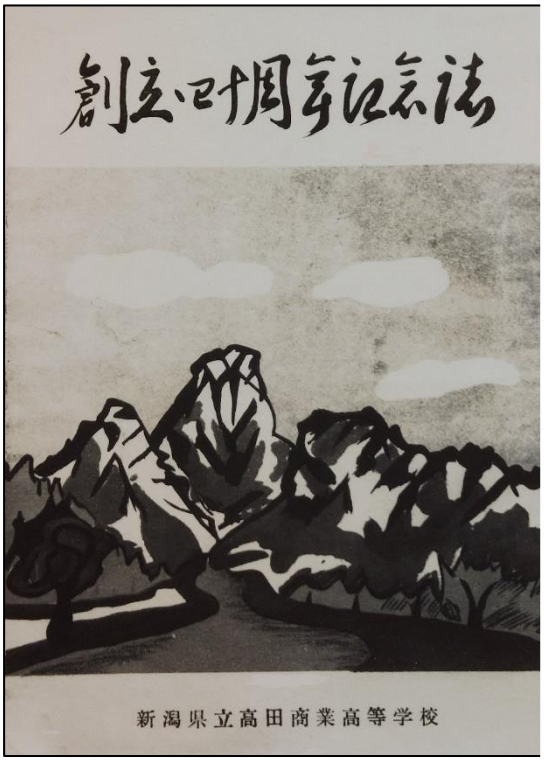
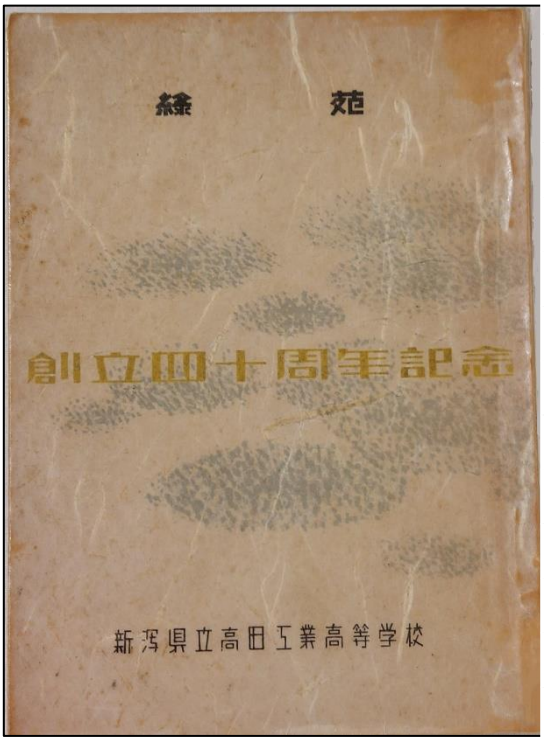
編集部　＊＊　＊＊・＊＊＊（文芸・沿革）　＊＊・＊（生徒会・クラブ）＊＊・＊＊・＊＊（論文・研究）

校正部　＊＊　＊＊＊　＊＊（他に編集部員）

装丁部　＊＊　＊＊　＊＊　＊＊

専門科部　＊＊　＊＊　＊＊　＊＊　＊＊

同窓会部　＊＊　＊＊



作業中